

平成 30 年度 第 2 回学校運営協議会（議事録）

開催日時：平成 30 年 10 月 26 日（金） 13 時 30 分～

<授業見学>

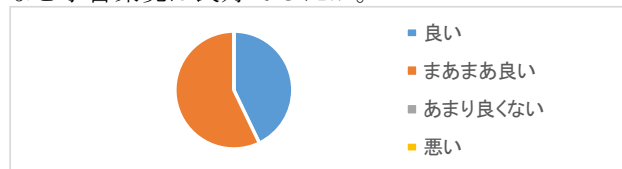
5 校時及び 6 校時の授業を見学（ 1 年 1 組 国語総合 → 1 年 5 組数学 A
→ 2 年 3 組 世界史→1 年 4 組 数学 I ）

出席委員：池田委員、福島委員、植阪委員、露木委員、嶋村委員、堀井委員、土田委員
（東京大学大学院生 1 名指名参加）

（アンケート抜粋） ＊アンケートは全 7 項目の質問と感想・意見等です

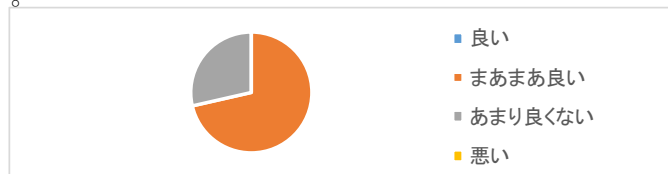
問 2 教室が清潔で、整理整頓されているなど学習環境は良好でしたか。

良い	3
まあまあ良い	4
あまり良くない	0
悪い	0



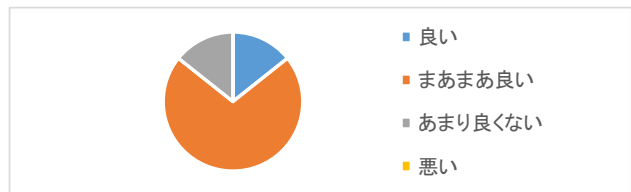
問 3 生徒が”生き生き”としていましたか。

良い	0
まあまあ良い	5
あまり良くない	2
悪い	0



問 7 授業内容は本校生徒にあわせ、工夫していると感じましたか。

良い	1
まあまあ良い	5
あまり良くない	1
悪い	0



（授業見学感想・意見）

- ・発言や自主的な行動が身につくと良いのではないのでしょうか。
- ・疑問の声、生徒からの声が多く感じました。
- ・もう少し発信力があっても良いと思う。
- ・自主性や積極性を伸ばすと良いと思う。
- ・まずはわかりやすく教えてから、対話的活動を取り入れていただけると良いのではないか。
- ・素直でまじめさは感じられますが積極性や自主性の面が薄いように見受けられた。
- ・学びに対する姿勢は良好だと思う。

<各部会>

地域連携部会

開催日：平成 30 年 10 月 26 日(金)

時間：15 時 10 分～16 時

場所：深沢高等学校応接室

司会：三木副校長

出席委員：池田委員、嶋村委員、瀬谷委員、堀井委員

(1) 授業見学

委員：教室が若干暑かったと感じた。教室後ろのロッカーが雑然としてる印象はあった。学習環境の整備も必要ではないか。授業中、生徒が緊張していたのか、おとなしかった。

委員：生徒にもっと発言力を求め、生徒自らがアクションを起こせたほうがよいのではないかと。静かに学ぶ姿勢は評価できると思う。

委員：自分が学生の頃より生徒がおとなしいという印象。今の時代だからかもしれないが教員が生徒に気を使いながら話しているように感じられた。

(2) 平成 30 年度 学校報告書 中間検証

生活指導 G：全体的に落ち着いた学校生活を送れている。登下校指導では特に自転車の乗り方指導を行う。教育相談・ケース会議の開催。SNS 関係の案件

地域連携 G：ボランティア委員の活動で、幼稚園・介護老人保健施設等との交流。新川清掃（今年度は中止）地域清掃活動で地域との交流。

生徒会 G：文化祭における地域との交流は、アンケートの結果 90%以上が好評という結果。青少年健全育成キャンペーンへの参加。

管理・運営 G：工夫を持った防災訓練の実施。地域と連携した宿泊防災訓練の実施。

委員：小中学校は地域密着なので連携は取りやすいが、高校生はどうするのか。

委員：生徒が主体的に行動できるように育ててほしい。そして主体的に地域とかかわってほしい。

委員：防災については心配な状況が続いているので、自治体と協力して地域のお年寄りに安心してもらえるようなつながりを作ってほしい。そのことが高校生にも「社会の役に立っている」という自覚を持たせることになる。

委員：防災の活動としては、市の活動とリンクさせてほしい。

(3) 各団体の活動報告等

委員：地域清掃・いも掘り大会などで地域間の交流を行う。高校にも参加してほしい。

委員：青少年健全育成キャンペーンを鎌倉市内の学校に協力いただいている。6 月から小学生の放課後の活動を週に 1 回行って、その中で地域の高齢者や大学生と交流を行っており、その活動に高校生も参加してほしいという希望を持っている。

委員：園児との交流は高校生にも「役に立っている」という実感を持ってもらえるのではないかと。思う。

委員：同窓生が戻ってきやすい場所を提供する。同窓会から在校生への援助ができれば。

以上

キャリア部会議事録

開催日：平成 30 年 10 月 26 日(金)

時間：15 時 10 分～16 時

場所：深沢高等学校会議室

司会：北澤総括教諭

出席委員：福島委員、植阪委員、土田委員、石川委員

指名参加：東京大学院生 1 名、本校教諭 2 名

(1) 授業観察について

委員：初々しい教諭だった。生徒が落ち着いて授業を受けている(数学)。

委員：プリントの内容がよく解らない。生徒が会話している(数学)。

委員：工夫された授業だが、生徒に伝わっているか疑問である(数学)。

委員：授業改善プロジェクトチームはすばらしい取り組み。ここでの議論は有意義と思われる。ただし、授業の工夫が生徒に届いていないかもしれない。なぜならば、生徒に既習の認識がないのでは、と思われる発言がいくつかの授業でみられたからだ。教員が伝えたいことと生徒の頭に残ることは必ずしも一致しないので、伝わっているのかを確認する時間があってもよいのではないだろうか。また、ある程度しっかり教えてから活動させたほうが、教師の工夫がよりよく生きるのではないかと思われる授業がいくつかあった。

委員：主体的学習は、前提として知識がないと難しい。必要となる知識を事前にしっかり教えた上で、主体的に学ばせる授業設計がのぞまれるのではないか。

授業改善PT：貴重なご意見をメンバーに伝え、参考にして活動を進めていく。

(2) 学校目標報告書中間検証について(報告)

学習支援G：新学習指導要領、新テストに対応できるカリキュラムマネジメント、授業改善プレ
ゼンテーションRの活用 生徒の家庭学習時間

進路指導・支援G：進路に関わる諸課題

以上

学校評価部会

開催日：平成 30 年 10 月 26 日(金)

時間：16 時～16 時 30 分

場所：深沢高等学校会議室

司会：北澤総括教諭

出席委員：池田委員、福島委員、植阪委員、露木委員、嶋村委員、瀬谷委員、

堀井委員、土田委員、石川委員

指名参加：東京大学院生 1 名、本校教諭 2 名

(1) 教育公務員特例法による研修

別紙により報告した。

(2) 各部会の概要報告

深田総括教諭より、地域連携部会について報告がされた。

内堀総括教諭より、キャリア部会について報告がされた。

(3) 学校目標報告書中間検証について

各グループリーダーより概要の説明がされた。

委員：新しい学習指導要領では、キー・コンピテンシー（資質・能力）の育成が目標として示されている。本校では、インターシップの実施など、いろいろな取組でそうした力を育成しようとしており、大変すばらしいと感じる。せっかくの機会なので、自分がどういうことを学んだのかを自覚していくことでさらに価値が高まるのではないかと。本人がどのような力をつけたかメタ認知するように促すということである。例えば、防災訓練に参加した後、“自分の体験をしたこと”を発信してもらい、それを評価の対象とすることなどが考えられる。さらに、他者評価と自己評価とをつきあわせていくことも、成長を促すことにつながるだろう。

委員：防災訓練は実践としてつながっていくと良い。

委員：感想としては、地域の連携は進んでいる。地域に根差している。防災、インターンシップ、商工会議所等との連携事業、模擬裁判も行っている。ますます磨きをかけていただきたい。キャリア部会で報告された「授業研究プロジェクト」については、流れを止めないように頑張って欲しい。



以上